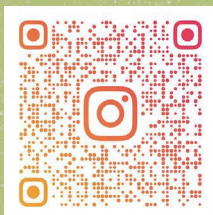


すずらんスマイルプロジェクト

公式ホームページ



公式Instagram

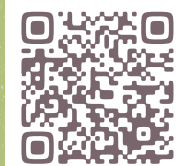


街なかすずらんサポーターを募集しています！

一緒に若年女性の支援の輪を広げていきませんか？

街なかすずらんサポーターとは??

すずらんスマイルプロジェクトの趣旨に賛同いただいた企業や団体、地域の方がサポーターとなり、区と一緒にプロジェクトのPRや支援活動を実施する取組です。



すずらんスマイルプロジェクト事務局
(豊島区男女平等推進センター)

✉ suzuran.smile.pj@city.toshima.lg.jp

☎ 03-5952-9501

発行：2024年3月

すずらんスマイルプロジェクト



「なんとなく生きづらい」を
「たしかな支援」につなげていく
若い世代の女性のための支援プロジェクト

すずらんスマイルプロジェクト事務局
(豊島区 男女平等推進センター)

「なんとなく生きづらい」を
「たしかな支援」につなげていく。
若い世代の女性のための支援プロジェクト

すずらんスマイルプロジェクト

豊島区職員による組織横断プロジェクト



どうしてはじめたの？

コロナ禍により、若年女性の孤立や貧困など、様々な課題が顕在化しました。

しかし、区の相談窓口には、若年女性からの相談がそれほど増えていない状況でした。

若年女性は、どこで・どのように・抱える問題と向き合っているのか？

区の相談窓口での対応に問題はないのだろうか？

そんな疑問から、生きづらさを感じている若年女性の現状を把握し、各分野が連携しながら、スピード感をもって対策を検討していくため、令和3年1月29日にプロジェクトを開始しました。

プロジェクトのミッションは？

「さみしい」「つらい」「居場所がない」など、生きづらさを抱える10代・20代の若年女性をターゲットに、困難な問題や状態に早い段階で気づき、区の相談窓口や施策、関係機関や専門機関、民間支援団体等による適切な支援につなげていくことをミッションとしています。

プロジェクト名の由来は？

すずらんは・・・

- ・花言葉は「再び幸せが訪れる」、「純粹」、「希望」
- ・下を向いて咲くのは、おしべやめしべを守るため
- ・北海道でも育つほど、寒さに強く、群生し、毎年花を咲かせる。

若い女性が仲間を増やしつつ、希望をもてるよう、願いを込めて、すずらんスマイルプロジェクトと名付けました。

プロジェクトのメンバーは？

- ・当初は、現区長である高際みゆき副区長をリーダーに、女性管理職10名で庁内横断組織として開始。
 - ・その後、当事者世代の目線も取り入れるため、プロジェクトの趣旨に賛同する、若手女性職員も参加（令和3年度は25名、令和4年度は53名で活動）。
 - ・令和5年度から、区長直轄のプロジェクトと位置付け、推進体制を強化。男性職員も「応援団」として参加し、令和5年度は67名で活動。
- 4つのチームと応援団に分かれ、活動中！

情報発信 調査研究 連携促進 人材育成 応援団

ロゴとイメージキャラクターは？

プロジェクトのメンバーが心を込めて作成しました。

ハートの形は、「支援」を表し、

「どんな悩みでも受けとめます」という思いを込めています。



プロジェクトリーダー
豊島区長 高際みゆき

すずらんスマイルプロジェクトを立ち上げた3年前、コロナ禍で、追い込まれた若年女性たちの貧困、虐待、性被害、自殺など様々な問題がたびたび報道され、心を痛めていました。その一方で、区の相談には顕著に現れておらず、“生きづらさ”を抱える若年女性を支援につなげたいと強く思ったことを覚えています。

多角的な視点からスピード感を持って、そして、小さなことからでも実効性ある取組にしたいと考え、私をリーダーに女性管理職10名で、ほぼゼロベースからスタートさせました。

当事者に近い若手女性職員の自由な意見や発想もどんどん取り入れ、自治体初となる生理用品の無償配布や当事者目線の情報発信などにも力を入れてきました。

令和5年度、区長直轄のプロジェクトと位置付け、推進体制を強化し、メンバーは総勢67名となりました。すずらん・ネット会議や街なかすずらんサポーターなど、民間支援団体や企業、大学生などとも、様々な形で連携・協働し、支援の輪、支援者の輪を広げる取組を進めております。

支援の手が届きにくい若い女性たちに、私たちは寄り添い、確かな支援につなげていきます。

どんなことでも大丈夫。あなたの“なんとなく”を聞かせてください。

プロジェクトの4つのチーム、応援団とは？

プロジェクトメンバーである職員が4つのチームと応援団に分かれ、それぞれのコンセプトに基づき、活動したり、連携しています。メンバーそれぞれが、アイデアをもちより、チームで協力しながらプロジェクトを進めています。

情報発信 チーム

コンセプト とにかく伝えよう！

主な活動内容

- 🌟 ずずらんスマイルプロジェクト公式 HP の運営
- 🌟 X (旧Twitter) ・ Instagram 等を活用した情報発信
- 🌟 職員理解を深めるための 庁内広報誌「ずずらん通信」の制作 など



調査研究 チーム

コンセプト ストーリーとエビデンスの収集！

主な活動内容

- 🌟 女性の生きづらさや支援の必要性を可視化
- 🌟 特別区長会調査研究機構の研究会への参加
- 🌟 調査・研究結果を生かした政策体系の検討 など



連携促進 チーム

コンセプト 仲間を増やす！

主な活動内容

- 🌟 大学や民間支援団体等との連携事業の企画 など



人材育成 チーム

コンセプト 職員が重要！

主な活動内容

- 🌟 プロジェクトメンバーの募集
- 🌟 相談員連絡会の開催
- 🌟 スキル UP 研修等の企画・運営 など



応援団

コンセプト 男性視点！

主な活動内容

- 🌟 男性の視点を生かした情報発信や研修の企画、民間との連携 など

など

プロジェクトの主な取組

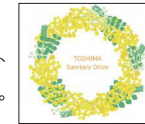
「生理の貧困」対策 生理用品の配布

これまで
約18万枚配布！

防災備蓄用品や企業寄付を活用した生理用品の配布

自治体初

相談窓口(アシスとしま、子育てインフォメーション、男女平等推進センター)で常時配布をしているほか、春には「新生活応援!」として、図書館などで区立の21施設で生理用品の配布をしています。「生理用品を受け取りたい」と言わなくても受け取れるよう、カードを用意し、このカードを示すだけでお渡ししています。



無料生理用ナプキン提供サービス「OiTr」の導入

自治体初

区役所本庁舎や区民センター、中央図書館、男女平等推進センターの4施設、16か所に設置しています。

区立小中学校での生理用品の配布

小学校22校、中学校8校のトイレや保健室に生理用品を常備し、安心して学校生活を送れるような体制を整えています。



調査・研究

既存調査や他自治体の情報収集

特別区長会調査研究機構の研究会参加

特別区における女性を取り巻く状況と自治体支援の方策に関する調査研究(令和5年度)にメンバーが参加しました。

“生きづらさ”に関するキーワード

※チーム会で出たワード

自己肯定感
“自分らしく”でいい

エンパワメント
生きる力をサポートする

女性はライフイベントの影響を受けやすい

アンコンシャスバイアス
「男らしさ」「女らしさ」

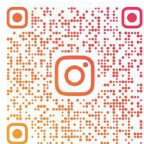
生きづらさは
経済的なものだけではない

当事者に届ける情報発信

SNSやYouTubeを活用した情報発信

イベントや居場所情報などの告知・宣伝等をしています。令和5年10月11日、国際ガールズデーに合わせて、公式Instagramを開設しました。

Instagramはこちら！



SNSを活用したターゲティング広告の実施

より効果的にアウトリーチするため、Yahoo!、LINE、Instagramで若年女性に向けたターゲティング広告をはじめました。夜間など効果的な時間帯で実施しています。



バナーをタップすると
すずらんスマイルプロジェクト
のHPにつながります

令和5年10月の国際ガールズデーに合わせた配信では18日間で、インプレッション数(表示された回数)約50万6千回、クリック数(HPへのアクセス数)約2千回！

若年女性の目に留まりやすく、わかりやすいチラシやカードの作成



PRカード



相談窓口紹介チラシ



支援リーフレット

当事者目線で検討したやさしい雰囲気ホームページの制作

「相談先がわかるように」「やさしい、わかりやすい表現」など、「行政らしさ」にはこだわらずに、相談窓口や居場所を紹介しているほか、相談窓口の雰囲気を知ってもらうために、若手職員が実際に相談窓口を体験した「行ってみたレポート」も掲載しています。



ホームページはこちら！



民間支援団体と連携したポスター・動画の作成

本人が生きづらさに気づく、また、若い女性と接する機会が少ない人にも理解してもらえるよう作成しました。



動画はこちら！



各種イベントやキャンペーン

各種キャンペーンへの参加

警察、鉄道事業者などの関係機関、地域の方々と共に、自殺予防街頭キャンペーンや痴漢撲滅キャンペーンに参加し、PRカードなどを配布しました。



自殺予防街頭キャンペーン



痴漢撲滅キャンペーン

池袋ハロウィンコスプレフェスに参加

池袋を舞台とした日本最大級のハロウィンイベント「池袋ハロウィンコスプレ」に参加し、PRカードを配布しました。区長をはじめ、管理職やすずらんスマイルプロジェクトのメンバーもコスプレして参加しました。「役所は敷居が高いイメージだったけど、ぐっと親しみを感じた」など好評でした。



ファーマーズマーケットでのパネル展示

イケ・サンパークで行われるファーマーズマーケットの区のブースにて、毎回、パネル展示を行いました。



パープル・オレンジリボンツリーの設置

児童虐待防止推進月間(11月)と女性に対する暴力をなくす運動(11月12～25日)に合わせ、一体的なキャンペーンのひとつとして、区役所本庁舎にパープル・オレンジリボンツリーを設置し、プロジェクトの周知を行いました。「あなたは一人じゃないよ」など、来庁者の方にメッセージを書いてもらい、ツリーを飾りつけました。



ふくし健康まつりに出展

福祉や健康の啓発や、区民参加と交流を目指した「ふくし健康まつり」にすずらんスマイルプロジェクトもブース参加。プロジェクトの周知活動のほか、「女の子のからだのお悩み相談コーナー」や「ブツブツつばやく」と「物々交換」をかけた「ぶつぶつ交換」などのワークショップを行いました。



産官学連携コンソーシアム「チームとしま」に参加

企業や団体、教育機関が参加する「チームとしま」に参加し、プロジェクトのPRを行いました。参加したことをきっかけに、企業との新たな連携もはじまりました。



職員の人材育成

相談員連絡会の開催

各所管課の相談窓口で相談にあたっている職員が集まり、各相談窓口の状況を把握するとともに、連携を深めるため、情報共有や事例検討を行う連絡会を年3回開催しています。

令和5年度の事例検討

- ・親からの暴力によりSNSで知り合った男性を通じて家出をした若年女子への支援
- ・小中不登校後、対人関係の未熟さを呈する若年女性への支援
- ・養育の意思がはっきりしない特定妊婦への支援

職員研修の実施

職員向けに、生きづらさを抱える若年女性の理解やスキルUPのための研修を行っています。

令和3年度

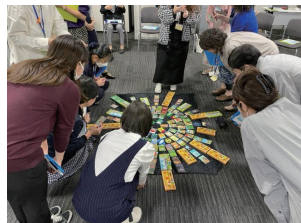
- ・様々な背景を持つ相談者とともにある窓口について考える

令和4年度

- ・困難な問題を抱える女性への支援に関する法律について
- ・困難や生きづらさを抱える女性への対応の基本を学ぶ

令和5年度

- ・マジョリティの特権を可視化する～他人事から自分事へ～
全管理職に向けたマネジメント研修の一環として実施し、「特権」という視点を学びました。
- ・支援者のこころのケア
～支援者だって傷ついている?! 支援する人が健やかでいられるために～
- ・届けたい人に支援を届けるために～自治体だからできること～

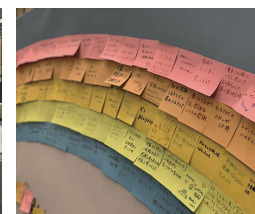


若者企画! すずらんエール事業 (大学生・高校生など当事者世代との連携)

大学生とのコラボ企画 「としま自分の日」

区の文化推進ウィークに合わせ、区内の大学生を中心に、「自分と向き合う1日」をコンセプトに、イベントを実施しました。

- ・自分の声を届ける! 「区長と“Z世代”のトークセッション」
- ・大学生が独自開発した、自分の価値観を見つける! 「じぶん発見ゲーム」
- ・自分の心の支えを描く! 「じぶんスマイルアート」



帝京平成大学 泉祭「すずらん鼻プロジェクト」(コラボブースの出展)

心理学科の学生とコラボし、当事者視点で企画立案し、「すずらん鼻プロジェクト」を実施しました。

- ・「居場所に行ってみた」レポートの展示や「行ってみた動画」の再生
- ・女性の生理前に現れる心身の不調(PMS)に関する展示



豊島岡女子学園中学校・高等学校の生徒からの提案

高校2年生の課題研究のひとつとして、「豊島区における効果的な女性支援とは?」をテーマに研究・考察し、若年女性に関心を持ってもらうための、より印象的な周知方法について提案してくれるとともに、ポスター案を作成してくれました。

民間支援団体との連携・協働

生きづらさを抱える若年女性をつなぐ、つなげる すずらん・ネット会議の設置

区や民間支援団体間の必要な情報交換やそれぞれの強みを活かしたネットワークを構築することにより、制度や支援の手が届きにくい「生きづらさ」を抱える若年女性の置かれた状況や問題を早期に発見し、適切な支援につなげることを目的として令和5年10月に設置しました。



自治体初 すずらん・ネット会議は、困難女性支援法に基づく「支援調整会議」を先行し、若年女性版の試行モデルとして設置しました。

参加団体

- ・若年女性への居場所づくりや相談、アウトリーチなどの支援を行う12の民間支援団体
- ・区の福祉部門や子育て支援、保健所など11の関係部署

支援リーフレットの作成

区の相談窓口のほか、すずらん・ネット会議の参加団体の活動を紹介する支援リーフレットを作成しました。

当事者世代の高校生・大学生、民間支援団体のご意見をふまえ、手にとってもらえるようなデザインに



国際女性デー「#(ハッシュタグ)」キャンペーンの実施

民間支援団体等とともに、生きづらさを抱える若年女性に向けて、メッセージを届けるため、共通のハッシュタグを使用したキャンペーンを実施しました。



多様な居場所の開設

民間支援団体と連携し、困りごとの相談、生理用品等の無料配布、ものづくりによる交流、コミュニティの形成等、気軽に立ち寄れる多様な居場所を提供しています。

相談窓口の積極的周知にも取り組み、若年女性に必要な支援につなげていきます。

サンシャインシティのスペースで、助産師や社会福祉士などの資格を持った相談員に、からだや心、人間関係のことなど気軽に相談できます。無料占いやっています。

【出張相談会：びこカフェ】



土日の朝に集まり、ごみ拾いをしてから、みんなでコーヒーを飲む。地域でゆるく繋がる新しいコミュニティ

【Cleanup&Coffe Club】



池袋



暖かい雰囲気の中で、毎回、ものづくりワークショップを楽しめます。心の専門家がゆっくりお話を聴きます。

【ものづくり交流スペース だちカフェ】



若草プロジェクトとの連携企画 出張まちなか保健室

若草プロジェクトが運営する“ほっと一息つく”居場所「まちなか保健室」を、男女平等推進センターで開催しています。お茶を飲んだり、ワークショップに参加したり、ゆったり過ごす場をつくりました。



あなたにあった居場所を探してみませんか？

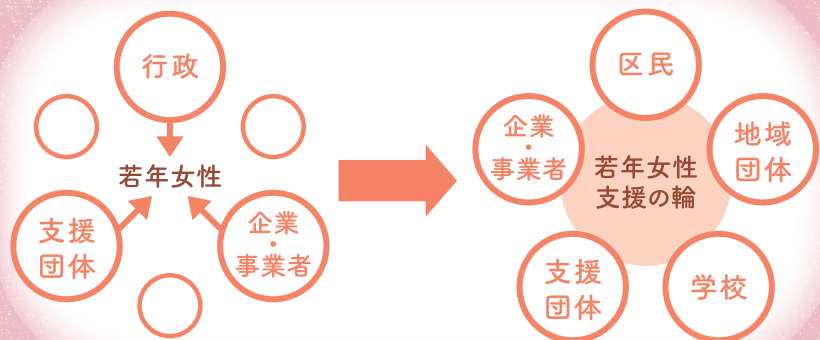


としま街なかすずらんサポーター制度

これまで行政や支援団体、企業・事業者など、それぞれが強みを活かした支援を行っていましたが、それぞれが行っている支援、まだつながっていない支援を、つなげたり、つながりしていくことで、支援の輪が広がり、地域全体で見守り・支援するネットワークを構築することを目的に令和5年12月、サポーター制度を創設しました。

街なかすずらんサポーター

「点」から「面」に支援の輪を広げていきます



サポーターの役割

- ・プロジェクトの周知や支援情報の発信
- ・支援対象の見守り、声かけ、支援先の案内
- ・支援対象の居場所の提供 など



サポーター登録証



サポーターとの連携実績

PRキャンペーン等

西武池袋本店

「KAGAYA 星空の世界展」「くらしのデザイン展 2023」などの企画展でのプロジェクト紹介告知や、3月8日の国際女性デーにあわせ、プロジェクトのパネル展示や各種 PR キャンペーンを行いました。



店頭でのPRキャンペーン



デジタルサイネージを活用したPR

株式会社フロントサービス(GLOBAL RING CAFE)

プロジェクトのポスターの掲示やカードの配布のほか、コーヒー生産に携わる女性を応援する「Woman in Coffee」イベントでは、カップスリーブにプロジェクト公式ロゴマークをつけていただきました。



GLOBAL RING CAFE
(池袋西口公園内)

女性の健康セミナー



大塚製薬株式会社

女性の健康をサポートする大塚製薬株式会社のノウハウをもとに、女性ホルモンやPMS、更年期など女性の健康に関するセミナーを、男性も含めた職員向けに実施しました。

物品等の寄付

朝日信用金庫

創立100周年記念事業「地元応援団」として多大なご寄付をいただきました。

その他、生理用品(宝印刷株式会社)やお菓子などの寄付も!